



栄光園だより
第131号
2023年4月28日発行
発行
社会福祉法人 栄光園
別府市南荘園町3組
〒874-0904 電話 (23) 2827
<http://www.eikoen.jp/>
編集 広報誌編集委員会
印刷 大野印刷株式会社
別府市青山1-7 電話 (21) 0505

私たちは どのような社会を 目指すべきか

理事長 江口敏一



この4月はこどもの養育者にとって新たな希望が与えられた。こどもまんなかの社会実現に向けて「こども家庭庁」が発足し、こどもの視点に立ち、こどもの最善の利益を第一に考える政策を進めていくと政府が宣言したからである。

子ども子育て政策の取り組みとしては、現状をはるかに改善できる試案であり、この取り組みが実現されると現状の課題改善にはとても期待がもてる。いつの時代でも、日本文化の伝統にある「子は宝」が真実であり、大切に実践すべき命題である。

経済原理

第2次世界大戦で敗戦した真相究明を吉本隆明はアダムスミスの「国富論」とマルクスの「資本論」の熟読・熟考から世界は経済原理で動いていることを再確認した。経済原理を無視した戦争は無謀であったと結論付けた。今日新聞の経済市況欄は微細な数字の羅列が毎日更新され、その市況も私たちの生活にとって無視できないことを感じさせる。

実際、こども家庭庁も予算の確保なしには絵に描いた餅になるからである。

実際、お金の向く方に心が向く。それぞれの経済状況を把握すれば、その人のその集団が何を考え、何をなそうとしているかがわかると言われる。隣人愛に根差した行動なのか、自己の利益のみを追求しているだけなのか。国の施策にしても同様である。

人口構造

福祉の理念を端的に言えば「ケアすることは分かち合うこと」「自分を愛するようにあなたの隣人を愛する」と表現することもできる。この分かち合いの出来る人が可能な限り「分かち合わねば」ならない。それが自然にできる人口構造図は、富士山型のピラミッドではないかと思う。現在、少子高齢社会で、頭でっかちの逆台形の人口構造図で、支援を必要としている高齢者が極端に多い社会はいびつでもある。

出生数の減少

一人ひとりの人生はその人の自由な裁

量に任せられている。一人でいようが、結婚しようが、出産し子育てをしようが自由である。子育ては一人ひとりに心の喜びをもたらすこともあるが負担も大きい。少なくとも日本の将来を考えると子育てに関する経済的な負担は全て国策として無償にする程度の英断が欲しい。この宝の子どもたちが日本の将来を担うのであり、この子どもたちが成長し、働いて社会貢献し税を納めることにより、経済的な視点からも社会の発展を支える礎となるのである。実際一人の女性が生涯生む子ども数の合計特殊出生率は1・30で、出生数は予測を超えて年々下回り、昨年の誕生者は80万人に達しなかった。この出生数が前年比4・3万人の減少に対して、2020年の統計では人工妊娠中絶者数が14・5万人である。どのような命も生み、育てられる環境の設定が求められる。

権利擁護と虐待防止

明るくあたたかい社会の中で子どもたちが成長して欲しいと願うが、その到来を望むうえで欠かせないのは、子どもの虐待防止、権利擁護の徹底であり、これについても大人社会がその手本を示すことが求められる。

第2次世界大戦後においても、新憲法の基で経済発展のさ中には多くの複合汚染が蔓延した。東日本大震災や原発事故での被災者の人権が守られたのが、最近でもスリランカのウイシユマさんが出入国在留管理局という国の機関の中で死亡せざるを得なかった事件も発生した。

このような大人社会での人権擁護の姿勢の足りなさの反映が、児童虐待防止法や教育機関でのいじめ防止法があるにもかかわらず虐待相談件数の年々増加が止まらない状況を呈している。最もシンプルな養育の原理「弱い者い

じめをしない」がなぜ守られないのか。「いじめ」の根底には、他人に対する思いやり、いたわりといった基本的な人権感覚の希薄さがある。相手の立場に立って考えると「いじめ」が大変残酷で、取り返しがつかない重大な人権侵害であることを十分に理解することが最も重要で、いじめは差別の芽であることを考えると、差別をなくすためにもいじめをなくすためにも、お互いの異なる点を個性として尊重する人権意識を養っていくことが重要になる。より広い意味での社会で他者を排除することのない社会的条件を整えることがすべての基本となる。

インクルーシブな社会を

インクルーシブ社会は、人間の多様性を認め合う社会で、障害の有無や精神的及び身体的な能力の違い、性格の特異性などを含め、可能性は最大限度まで発達させ、自由な社会に効果的に参加することを目的とする。障害のある者と障害のない者が共に生活することであり、障害のある者が教育制度一般から排除されず、自己の生活する地域において初等中等教育の機会が与えられ、個人に必要な「合理的配慮」が提供される等が必要とされている。

達成目標は「この子らを世の光に」

障害児の養育に全力を傾けた糸賀一雄は、障害のある子を社会の中心にという福祉理念を掲げて近江学園を1946年創立した。バンクミケルセンのノーマライゼーションをはるかに超えた福祉理念である。また、伊藤隆二は、「この子らは世の光なり」と掲げて1990年代からインクルーシブ教育を提案した。

これらの理念の浸透こそ、全ての子どもたちの権利擁護・虐待防止を成功へ導く確かな方法であると考えている。

児童養護施設

子どもたちは頑張っています

施設長 岡田 豊弘

コロナ禍との対峙は早いもので4年目となりました。その間、当施設の8割の児童、職員はコロナウイルスに罹患し、その対応は壮絶でした。「時が止まって欲しい」「この試験から逃れたい」と何度も祈っていた自分がいました。神はそれを赦すはずありませんでした。「試験は乗り越えられる者にしか与えられない」ことを改めて気づかされた次第です。

さて、新しい年度を迎えました。30名の子どもたちが、満開となった桜の木に寄り添われながら、6軒のお家に分かれての暮らしが始まっています。2歳で栄光園に入り、今年で高校3年生となったAさん。両親の記憶はありません。ずいぶん成長し、今調理師免許の取得に頑張っています。(立派に成長した姿を見て欲しいです。お父さんに)ほんの数か月前に親御さんと離れ、栄光園に来たBさん。ランドセルを背負って笑顔で入学することができました。(きつとママやパパに手をつなぐれ、学舎の門をくぐりたかったに違いありません。)ヤングケアラーがゆえに当施設での生活となったCさん。それまで不登校でしたが、無事に志望校に合格しました。(天国で祖父も喜んで

ると思います。)

子どもたちの多くは、不本意に家族と離れ、心に大きな傷を受け、その傷の手当てや回復のために、当施設にやってきました。昨今はその傷がとても深い子どもたち、心が脆弱な子どもたちが多し。しかし、そんな深い傷を負いながらも、施設を望んでやってくる子どもも一人としておりませんし、育った地域、家庭に帰りたい一心で施設での暮らしを頑張っている子どもたちがほとんどです。その頑張りは、時には寄り添う大人を翻弄し、疲弊させるほどの課題をぶつけてしまいます。その中で我々は、安心・安全な空間のなかで、暮らしをもにし、日々の何気ない日常を展開する。その何気ない日常により、傷が癒され回復につながっていくと考えています。そして、子ども一人一人が、いかにエンパワメントしながら自己実現に向かっていくのか、そのサポートをどのようにして養育の場で実践するのか、我々に問われています。何よりも基本であり大切なことは、子どもたちの声を丁寧に聞くこと、そして、養育する側からの「言葉(声掛け)」です。

子どもたちが、施設を巣立つとき、「あの時、話を聞いてくれて嬉しかった。」「あの時の言葉で救われた。」「色々あったけど、ここに来てよかった。」と思ってもらえるように。

これからも『神の愛の光がいつも注がれている園』であり続けていきます。



卒園生を送る会を終えて

保育士 小野 紘子

先月、3月11日に児童2名の「卒園生を送る会」をおこないました。私は行事企画委員として起案、準備等で送る会に携わらせてもらうのも3度目となりました。司会の原稿作りや各ホームへ案内を配ったり、卒園児の担当職員との打ち合わせやスライドショーの作成など様々な準備をおこないます。毎回同じような準備過程でも、卒園する児童によつて送る会の雰囲気もかわり毎年違う送る会が出来るのも見どころの1つだと思います。

今回は女兒2名ということもあり、温かく優しい雰囲気を送る会となりました。送る会のプログラムの中に卒園生からの挨拶があります。子どもたちそれぞれが話すことを決め、挨拶をしていきます。職員への感謝の気持ちや園での思い出など話すことは様々です。挨拶を聞きながら子どもたちの成長を感じる瞬間でもあり、少し寂しい気持ちにもなります。



園での思い出など話すことは様々です。挨拶を聞きながら子どもたちの成長を感じる瞬間でもあり、少し寂しい気持ちにもなります。

担当職員

からのメッセージでも卒園児に対しての気持ち溢れ涙する職員もいます。

また、毎年恒例となりつつある、スライドショーでは、園に入所してからの思い出の写真を担当職員が選定し、BGMを卒園生が決めて作成します。写真をみながら様々な思い出が蘇り、卒園生が決めたBGMも個性が溢れ、皆さんのにこやかな表情をみている私としては、数分ではありますが幸せな時間だなと毎回感じています。

これからも卒園する子どもたちの園での生活が充実し、思い出を振り返り、職員もお互いに感謝を伝え合える送る会を作っていきたいと思えます。



グレースホームの集い

栄光園を巣立った卒園生、栄光園を支援して下さる皆様、そして、ここで生活している子どもたちや職員の集いの場として、「バーベキューの夕べ」を例年8月に行っていました。

今年度は、**8月20日(日)17時**より園庭にて開催します。ただし、新型コロナウイルス感染状況によっては、日時の変更や中止の可能性もありますのでご了承ください。

事前にお電話をいただければ助かります。もちろん参加費は、無料です。お志等も固く辞退させていただいております。

新任者あいさつ

社会福祉法人栄光園ではこの春13人の新しい職員を迎えました。各施設より一人ずつ、ごあいさつを掲載いたします。



児童養護施設
児童指導員
佐藤 凜佳

この度4月から栄光園で働かせて頂いています。夢だった施設保育士となり、毎日充実した生活を送っています。

ホームは本当に温かい雰囲気です。子どもたちの心は安定しています。先輩職員の方々は、声かけひとつにしても子どもたちの気持ちを汲み取って行い、ちょっとしたことで褒めてあげ、子どもたちを尊重していることが伝わってきます。それが子どもたちの自己肯定感に繋がっているのだと思います。まだまだ学ぶべきことばかりですが、先輩職員の方々の背中を見ながら、目標とすることで存在するだけで子どもたちに安心感や勇気を与えられる人になりたいと思っています。

私は学校で、人は出会い直しによって距離感を学び、確かな愛を知り、自らの愛情表現についても顧みることができると学びました。どんな時も励まし温かく見守ってくれる人の存在で、傷は癒され、辛かった記憶もいつしか自分の糧となり、今度は自分が人を癒せるような優しさへと繋がっていくに違いないと信じています。先輩職員の方々のように、いつもそばで必要な時に応じられるような見守りの愛、無条件の愛を注ぐことができる養育

者になれるように、誠心誠意頑張りたいと思います。



乳児院
認定心理士
佃 尚弥

3月に西九州大学心理カウンセリング学科を卒業して、4月から乳児院栄光園で認定心理士として勤めさせて頂いています。主に子どもたちの発達の状態を把握するための検査をさせて頂いています。

大学で学んだ知識、発達心理学や乳幼児心理学を実践に活かして行きたいと思っています。また、目の前にいる子どもたち一人ひとりと向き合いながら子どもたちの生活がより良いものとなるよう資質の向上と情報収集に努めていきます。乳児院に常勤する心理士として、子どもたちや子どもたちと接している職員の方々との信頼関係を構築することを心掛けていきます。

今後に向けての抱負は、子どもたちの気持ちに寄り添った関わりを心掛けながら子どもたちの認知機能や運動機能、発達について見立てたものを共有し、より良い支援に繋げていくことを目指しています。そのために、子どもたちとの日々の関わりに加え、積極的に学ぶ姿勢を持ち続けていきます。



青山保育所
栄養士
陽 綾

4月より青山保育所で栄養士の仕事

をさせて頂くことになりました。

私は長年、保育園の献立や食育に関する仕事に関わってきました。食育を通して、子どもたちに食べ物を知ってもらい、少しでも食に興味をもってもらうためゲームやクッキングなどを実施してきました。子どもたちはゲーム形式になると興味を持つってくれる子が多く意欲的に参加してくれるためやりがいがあった仕事の一つでした。

給食や食育の中で少しでも嫌いな食べ物が減り、おかわりができる環境を作ること、給食の時間が楽しい時間になるといいなと思っています。アレルギー持ちの子どもには保育士や保護者との連携を図り、安全・安心な給食作りをしていきたいです。

また、乳幼児期の食事の大切さを知り、食べる機能の発達の中で粗食や嚥下機能に重点をおき、よく噛んで食べることで食料独自の味を楽しめる給食作りを目指していきます。

これまでの経験を活かし、新しいこともたくさん吸収しながら、これから頑張っていきたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。



野口保育所
保育士
溝部 知賢

はじめまして、今年度から野口保育所で保育士をさせて頂きます。趣味はスポーツをすることです。小学校3年から中学校卒業までの約7年間サッカーをしていました。サッカーだけではなく、いろいろな活動を通して、子どもと一緒に体

を動かす楽しさや面白さを伝えられたらいいなと考えています。子どもが主体的に活動できるような声掛けをして、子どもとたくさん関わりをしていきたいです。まだまだ、未熟なところはたくさんありますが、子どもの気持ちを傍でしっかりと受け止め、子どもがさらに成長できるような保育をしていきたいです。また、大学生活で得ることができた子どもとの関わり方も実践できるように積極的にコミュニケーションをとっていき、保育士として自分自身も日々成長ができるよう毎日の積み重ねを大切にしながら勉学にも励んでいきたいと考えています。子どもたちの笑顔にも負けないようにたくさん笑顔が絶えない保育士になりたいと考えています。どうか宜しくお願い致します。



辞令交付式にて



乳 児 院

保育主任 得能 三志郎

春の日差しが心地よく、桜や菜の花など、花の便りが聞かれる季節となりました。

新型コロナウイルスが落ち着き、第五類になろうとしています。ひと安心ではありますが、引き続き、子どもたちが安心・安全に生活していけるように、施設内の消毒や感染予防に努めてまいります。

さて、乳児院の子どもたちは3月の終わりから4月の初めにかけて5人が退所し、1人が入所しました。最近の傾向として措置児童が減少し、一時保護やショートステイ、レスパイトやトワイライトを利用する子どもたちが増えています。

今年度、乳児院は改築を控えており、新規事業に向けての準備にも取り掛かるなど、慌ただしい一年になります。地域における乳幼児支援の核となるように、新たな気持で子どもたちの支援にあたってまいります。



楽しかったよ

新型コロナウイルスが、落ち着いてきたため、乳児院の子どもたちは少しずつ園外に出かけられるようになってきました。待ちに待った園外保育です。今までなかなか園外に出られなかった分、公園に出かけたり、公共施設に遊びに行ったりすると、目をキラキラと輝かせて遊びまわる子どもたちです。広い公園でかけ回ったり、目新しい大型遊具で遊んだり、キティちゃんや握手をしたりなど、とても喜んでいました。

しかし、中には経験や体験不足から不安を示して固まる子どもや泣いてしまう子どももいます。そういった子どもたちには傍で寄り添いながら、少しずつ慣れて行けるように見守っていきます。

これからも、園外保育を通してたくさん経験や体験が出来るように、いろいろな行事を考えていき、子どもたちが楽しめ、満足できるようにしていきます。



聖書の言葉

(ヘブライ人への手紙5章2節)

「大祭司「イエス・キリスト」は、自分自身も弱さを身にまとうているので、無知な人、迷っている人を思いやる事ができるのです。」

別府不老町教会 牧師 尾崎 二郎

イエス・キリストのことをよく知らない方にとって、彼はどのようなにみられているのでしょうか。この世の罪を負わされ、罪に問われて十字架にかけられ、体に釘打たれて、血を流しながら絶命し、その三日後によみがえって、天に昇り、今は天にいます父なる神の右に座っておられる御方。

私は今日の聖書の言葉を聞くたびに、よくこの武田鉄矢さんの詩を思い起こします。昔の卒業式ではこの歌がよく歌われたのですが、今はどうなのでしょう？この詩は、キリストが言われる「思いやること」の一端を物語っているのです、この歌はいつまでも世代を超えて歌い継がれていくことでしょう。

彼をよく知らない方にとっても、キリストが、多くの人々の面前で激しい心身の損傷を受けて、その後、立ち直った方なのだということがお分かりになることでしょうか。又、神様であるキリストを覚える時、私たちは、キリストが「死に支配されたままでおられるなど」ということは、ありえなかった」(使徒言行録2:24)と思わないではおられず、キリストが復活して天に居られることは疑いようがないのではないのでしょうか。

さて、この「思いやること」には、様々な内容が含蓄されていて、私たち人間が一生かかってもそれを究めることは出来ません。ある人曰く、それは、いらだたず、迷惑がらずに忍耐して人に接する能力、おろかな人、分かりの悪い人、同じことを何度聞いても、一向に理解できない人に対してもいらだちを抑える能力をいう。また他人の過ちを怒ったり、悔んだりせず、その日の内に気持ちを整理して、やさしくしかも力強く気持ちを察し忍耐してその人を正しい道に連れ戻す態度、人を見捨てることなく、人間の中にある神に対する反抗心を認めながらも、何とかして優しく神に導き返そうとする態度である。

これはとても究めつくせません。私たちは誰しも最後の最後まで未熟な「神の子ども」なのです。

「悲しみこらえて微笑むよりも涙かれるまで泣くほうがいい人は悲しみが多いほど人には優しくできるのだから」

(贈る言葉「より」)

青山保育所

鬼はそと、福はうち

保育士 松本 真耶加

今年の節分は、自分たちで作った鬼のお面をつけて行事に参加し、豆まきの由来についてのパネルシアターやクイズを楽しみました。また、ぞう組代表のお友だちが自分の作った鬼のお面を紹介してくれました。それから、みんなでテラスに出て、鬼はそと！福はうち！の掛け声で豆まきの練習をしていると、太鼓の音と共に赤鬼と青鬼が登場してきました。子どもたちは一



目散に逃げたり、保育士の後ろに隠れたりする中、勇敢にも鬼に立ち向かい、豆を投げける姿も見られました。5歳児のお友だちが鬼たちと相撲をして戦い、無事に鬼退治することができました。節分に向けて、豆まきの意味や恵方巻きの由来をクイズや絵本で子どもたちに伝えており、当日は楽しんで行事に参加したのではないかと思います。

いっしょに遊ぼう

保育士 葉師寺 良

ぱんだ組2歳児のお友だちが室内で

大型のレゴブロックで遊びました。

最初は1人で遊んでいる子が多いなと思っていたのですが、気が付くとお友だちを誘って「いっしょにあそぼう」「いっしょにつくろう」と、友だち同士で楽しそうに話をしながら作って遊ぶ姿が見られました。

年齢的には並行遊びから連合遊び(小さい集団の中で遊ぶ)へステップアップする時期です。友だちを誘って何かを作るということが



ができるようになり、友だちとの関わりが増えたことで遊びが広がっていき、様子を見て成長を感じて嬉しく思いました。

おもちゃをぺったんこ

保育士 清原 里奈

きりん組3歳児のお友だちはもちつきに参加しました。もちつきの前日には「ぺったんこそれぺったんこ」と歌いながら『もちつきごっこ』を楽しみ、お餅に見立てた小麦粉粘土でお餅を丸める練習もして、当日への準備は万端です。

当日は、本物の杵に「おもたい」と言いながらも1人でしっかりと杵を持ち、上手にお餅をついていました。お餅丸めでは、粉が顔について白くなっている子や「取れない」と手にお餅がくっついて苦戦している子など様々ありながらも頑張っていて丸めていました。途中であんこを入れてあんこ餅を作って食べると「美味しい」と自然

と笑顔になっていました。

お餅をついて、粉まみれになりながらお餅を丸めて食べる。これを家で行うのはとても大変

で、保育園ならではの経験の一つになると思います。ダイナミックに遊ぶ機会をたくさん作りたいと思いました。



これなーんだ

保育士 阿部 梢

うさぎ組0歳児のお友だちは高野豆腐を素材に遊びました。硬い状態のものを、水に戻したものと、2つのパターンを準備しました。見慣れない高野豆腐に戸惑い、なかなか手が出ず。保育士が見本で触ってみてテーブルを軽く叩くと「コンコン」と良い音が。その途端子どもたちは急に興味を持ち触り始めました。保育士の真似をして何度もテーブルに打ち付けて楽しんでいました。次に水で戻した柔らかい方を出してみると、見た目は固いものと同じ



方ですぐにツンツンと触りだしました。しかし、指がググッと入ってびっくり。その勢いで手を引っ込めてしまいましたが、軽く

絞ってみると水がポタポタと出てきたびっくり。その水の上に高野豆腐を置くと水が無くなってまたまたびっくり。初めての光景ばかりで見入っていました。最後にはみんながギューッと絞ったりちぎったりして楽しむことができました。子どもは見る・聞く・嗅ぐ・触る・味わうなどの五感を使って遊び、たくさんのかたとを覚えていきます。また、触感遊びは指先をたくさん使うので、大脳を刺激し、脳を活性化させる効果もあります。

子どもの興味・好奇心、様々な感情に寄り添っていきたいと思います。

しわなんて何だい!!

主任保育士 二宮 孝介

私が日ごろの保育で気を付けていることのひとつが表情を大げさに見せることです。マスクを身につけることが当たり前になった近年特に気を付けています。笑顔であれば、目じりにしわが入り、ほろい線が深くなるほどです。

うさぎ組0歳児のクラスに関わる機会がありました。マスクを付けて笑顔をみせると笑顔を返してくれました。泣いていた子も、次第に笑顔に。顔の半分はマスクで隠れていますが、大げさな表情は伝わるようです。加えて正面に向かい合わせになることも意識しました。とくに赤ちゃんのころは正面の顔で人を認識するそうです。向かい合わせは安心感にもつながるのではないかと思います。

優しい言葉かけとボディランゲージも効果的です。周りから見られても恥ずかしくありません。「しわなんて何だい!!」です。今後も続けていこうと思います。

野口保育所

主任保育士 末吉 佳奈

野口保育所には保育目標である「子どもにとって毎日が楽しい保育」「食育を通して楽しく食事をする保育」「保護者が安心して預けられる保育」「地域との交流を大切にする保育」があります。その目標を達成するために職員間での連携を大切に資質向上を目指し、お家の方が安心して預けてもらえるように笑顔忘れず頑張りたいと思います。

少しずつですが前年度の1月からの行事の様子をお伝えします。

発表会

発表会を1月14日

(土)コミュニケーションセンタールで行いました。当日は大勢のお客さんの前でも緊張しながら最後まで踊ったり歌ったりと子どもたちの成長した姿がたくさん見られました。お家の人からのたくさん拍手に子どもたちはとても嬉しそうでした。大きな行事を経験し、また一つ成長した子どもたちの姿を見ることができました。



まめまき



各クラスでマスクやお面の制作をし、3日に全クラスで豆まきを行いました。今年は鬼に扮した5歳児と豆まきをしました。鬼の登場に泣いてしまう子やここに豆まきをする子もいました。

「鬼は〜そと！福は〜うち！」と豆をたくさん投げ、今年も体の中にいる鬼をみんなが退治することができました。



保育参観

2月と3月に今年度最後の保育参観を行いました。コロナ禍の中、なかなかお家の方に保育園での様子を見てもらう機会がなかったので少しの時間でしたが、子どもたちの様子を見てもらったりお家の方のお話もできたのでよかったです。コロナ禍での行事は難しかった部分もありましたが、来年度もお家の方が保育園での様子を少しでもみてもらえると思います。

懐かしい顔



2月に別府短期大学より保育実習生がやってきました。実習生は野口保育所の卒園生で、懐かしくもあり、保育士を目指していることを嬉しく感じました。保育園の思い出を覚えている子どもたちは少ないかもしれませんが、野口保育所で過ごした日々は楽しかったな、好きな先生がいたなど少しでも子どもたちの片隅に残ってもらえるように、これからも一生懸命子どもたちに向き合っていきたいと思います。

ひなまつり

ひなまつりに向け玄関にひな人形を飾ったり、冠や烏帽子などの飾りや制作など各クラスで取り組みました。その様子の写真を玄関に飾り、お家の方にも見てもらいました。給食の先生が作ってくれた給食やおやつは子どもたちにも人気よく食べていました。



避難訓練

3月に総合避難訓練を行いました。毎月行っている避難訓練ですが、消防署の方に来てもらうとまた違う雰囲気の中消防の仕方など教えてもらい、改めて学びなおしました。消防車も来ていたので、近くで見せてもらい子どもたちは大喜びでした。毎月の避難訓練の大切さを改めて感じました。



お別れ会

今年のお別れ会は担当の先生が卒園する子どもたちの入所した時の写真を紹介やインタビュー、卒園式で歌う曲をみんなの前で披露してくれたり、プレゼント交換も



して楽しい雰囲気になりました。給食は給食の先生が作ってくれたお弁当をみんなで園庭で食べました。おやつでは、焼きそば屋さんの屋台を開いてくれ、「屋台屋さん」を楽しみました。

お別れ遠足

1年間一緒に過ごしたお友だちや保育士と一緒にお別れ遠足をしました。ラクテンチに行ったり、散歩に出かけたり園内で遊んだり楽しい時間を過ごすことができました。



卒園式

3月25日にコミュニケーションセンターにて、無事に令和4年度の野口保育所の卒園式を行うことができました。当日は成長した子どもたちの姿に感動し涙が出る中、13名の子どもの元気がいっぱい野口保育所を巣立って行きました。幼稚園・小学校に行っても元気に頑張ることを願って、応援したいと思います。



新しい年度が始まりました。今年度も職員一同身を引き締め資質向上を目指し子どもたちが安全で楽しい保育ができるようにしていきたいと思っております。今年度もよろしくお願ひ致します。

野口保育所 職員一同

地域交流事業 集いの場くるみ

地域支援担当 原田 康子

2023年度「集いの場くるみ」は、4年目を迎えます。

2年目から新型コロナウイルスの感染が広がり、思うような活動ができない状況が続いておりましたが、5月8日より新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが季節性インフルエンザと同じ5類へ引き下げられ、これまでのような様々な制限が撤廃され、コロナ感染流行以前の状況となります。今後も、引き続き感染対策を行いながら感染防止に努めていきたいと思っております。

今年度は、食育に力を入れ、食事提供も以前のように行っていく予定です。地域の中で様々な経験を積み、地域の心地よさを感じていってほしいと思っております。子どもたちと地域の方々が一のきつかけとなり、子どもたちが、地域の中でのびのびと安心して過ごすことができるようになってほしいと願っております。様々な方々のお力をお借りして今年度も運営していきます。どうぞよろしくお願い致します。

1月

1月は、マジックショーと凧揚げを行いました。

温泉たま子さんによるマジックショーでは、「おー」という驚きの声や、「なぜ?」という子どもたちの表情が見られ、手品が終わるたびに「すごい」と大きな拍手が送られていました。

食育をテーマにした紙芝居も見せてい



ただき、皆さんのおかげで2023年のくるみの良い事始めとなりました。

その後、グラウンドで凧揚げをしました。ゲイラカイトや連凧に加え、グラライダーを飛ばしたり、かまどの火で焼き芋を焼くのを手伝うなど思い思いに戸外での活動を楽しんでいました。

また、「ファミリーマート&むすびえ様」の子ども食堂助成事業として、Q.U.Oカードをいただきました。今回、ファミリーマートで、肉まんやジュースなどを購入し、子どもたちとおいしくいただきました。ご支援に感謝いたします。

2月

2月は、アソビLABの企画「椎茸のコマ打ち体験」に参加させていただきました。早朝より雨が降り実施できるか心配しましたが、出発の頃には雨も上がり山にかかった虹を観ながら内成棚田に到着しました。山を登り景色を楽しみながら現地に着きました。

まずは広場でコマ打ち体験をさせていただきました。やり方を教えてもらい協力し合いながら黙々とコマを打っていました。合間に、ふきのとうを見つけたら、犬や猫と触れ合ったりとリラックスして過ごしていました。

おひるごはんは、かまどで炊いたご飯や豚汁、そして、炭火で焼いた椎茸もおいしく、皆おなか一杯食べていました。



最後は、椎茸の収穫体験。山の中を10分程歩いた所にあるほだ場で、足元が不安定な場所でしたが一生懸命椎茸を探して収穫していました。

帰り道、水路の中に、にゆるにゆるしたものを見つけ指でつついたりして、何だろうと見ていると、地元の方が「オオイタサンシヨウオの卵」と教えてくださいました。持ち帰っても大丈夫だということなので少し分けてもらいました。

卵から無事幼生となり今では、小さな足も生え水の中をよちよちと歩く姿も見られるようになりました。大きくなったら内成の自然に戻してあげようと思えます。それまで栄光園で成長を見守らせてもらおうと思っています。



卵からこんなに大きくなりました
持ち帰った卵

3月

3月は、3回目のお花見コンサートを行いました。子どもたちが知っている曲や昭和の懐かしい曲の演奏に手拍子や歌詞を口ずさんだりと楽しいひと時でした。

コンサートの後は、春のお祭り気分を味わってもらおうと企画した綿菓子やポップコーンを食べたり、お弁当をみんなでいただいたりと楽しい時間を過ごすことができました。ご協力いただきました皆様ありがとうございました。



社会福祉法人 栄光園 2023年1月～3月職員の採用・退職と4月新採用

4月採用

【児童養護施設】	浦浜 由衣 (児童指導員)
	佐藤 凜佳 (児童指導員)
	安部 順之亮 (児童指導員)
【乳児院】	奈須 琴海 (保育士)
	山内 孝太朗 (保育士)
	佃 尚弥 (心理士)
	佐藤 美優 (保育士)
【青山保育所】	阿南 智江 (保育士)
	安藤 悠夏 (調理員等) 1月採用
	桑野 亜由美 (調理員等)
【野口保育所】	溝部 知賢 (保育士)

退職

2月付	【青山保育所】 大平 葉子 (調理員)
3月付	【児童養護施設】 羽明華 野子 (児童指導員)
	黒田 亜海 (児童指導員)
	石本 悠莉 (保育士)
	森山 祐樹 (保育士)
	岡本ひとみ (調理員等)

新規任命

【乳児院】	齊藤 光里 (里親支援専門相談員)
【青山保育所】	早水 有里 (保育士・非常勤職員へ)
	後藤 美里 (保育士・正規職員へ)

ごはん応援プロジェクトへのご協力ありがとうございました

今年度、厚生労働省のごはん応援プロジェクト・ひとり親家庭等の子どもの食事等支援事業の一端を担うことができ、子育てに奮闘されているご家庭に食材をお配りしました。別府青山・東山地域包括支援センター、児童委員、民生委員、自治会長の皆様にご協力をいただき、これまでつなぐのなかつたたくさんの方々に物資をお届けすることができました。繋がり大切さを学んだ事業でした。今後もこのつながりを大切にしながら地域福祉に尽力して参りたいと考えております。

栄光園のご支援者

ご支援ありがとうございます。

栄光園は多くの皆様の継続した温かい思いによって支えられてきたことを心から感謝いたしております。皆様のこのような思いは、子どもたちの成長に、また、働く私たち職員の前にも大変大きな力となっていることをいつも嬉しく思います。
[2023年1月1日～2023年3月31日]

賛助金

- 安部道人様 大分市
- 岩田哲也様 大分市
- 上野貢一様 南さつま市
- 小郷晶子様 別府市
- 金谷正明様 大分市
- 田原明紀様 白杵市
- 田原陽子様 白杵市
- 日本基督教団杵築教会様 杵築市
- 日本基督教団福岡中部教会様 福岡市
- 別府教会様 別府市
- 松本常圃様 別府市
- 松本洋子様 別府市
- 山口産業(株)様 別府市
- (有)豊田緑化 豊田憲生様 別府市
- (有)栄光建設様 富田林市
- 愛隣幼稚園様 大分市

一般寄付

- 一般財団法人日本児童養護施設財団様 港区
- いろは商事(株)様 別府市
- 大分銀行労働組合様 大分市
- 影山隆之・由利様 大分市
- 税理士法人アール様 大分市
- 滝口真様 佐賀市
- 武生統司様 別府市
- 匿名様 別府市
- 日本基督教団門司大里教会様 北九州市
- 原順子様 別府市
- 豊和銀行従業員様 大分市
- (有)工房輪葉様 大分市
- 由布岳東峰山頂お賽銭 乙畔勝良様 宇佐市

自立進学資金

- 梶原康弘様 大分市
- 齊藤正治・康代様 速見郡
- 堤峰子様 国東市
- 日本基督教別府野口教会様 別府市
- 平川順子様 別府市
- 別府野口教会壮年会様 別府市

特別物品寄付

- チエコート (株)Daska & Desice様 合澤文化堂様
- スリッパ 安東秀典様
- 乳児服・お菓子 池田絢子様
- 乳児服・おしゃぶり 石窯工房モコモコ別府店様
- パン 岩井昇様
- 米 上野敏康様
- ぬいぐるみ 大鍛冶光子様
- お子様弁当(餃子弁当) 王将フードサービス様
- マスク (株)ジャムズ様
- 冷凍たこ焼き 大柳恵子様
- 玩具・お菓子 たんぽぽ食堂 小谷志郎様
- みかん 冷や麦・塩 非営利一般社団法人 おふくわけ
- 洋服・おむつ・ミルク 代表理事三ヶ尻英明様
- 洋服 河村恒・千夏様
- 洋服 北江理実様
- わらび餅 黒木正道様
- 恵方巻き・ちらしずし 割烹鮨「幸喜屋」河野智幸・和江様
- パン ココロト様
- 乳児服・おしゃぶり・お菓子 佐藤尚子様
- 消毒用アルコール・米 塩見泰美様
- 洋服・おもちゃ 清水沙椰様
- 小物・雑貨 生野裕子様
- から揚げ(冷凍)ピザ(冷凍) (株)新鮮便 伊勢崎物流センター様
- チャイルドシート 公益社団法人生命保険ファイナンシャル
- お菓子 アドバイザー協会 大分県協会様
- お菓子 ダイヤモンドグループ(株)様
- キャベツ・白菜 高橋恵一様
- 紫陽花 苗木 桜(切り花) 竹内富美雄様
- 米 匿名様
- 水筒 匿名様
- お菓子 匿名様

招待・奉仕

- ベビースタイル 今井江里香様
 - お菓子 匿名様
 - タオル 利根栄市様
 - 乳児服・靴・おしゃぶり 友永優子様
 - 衣類・シューズ・毛布・物品 豊永家壽子様
 - みかん・いちご 中山田正春様
 - 洋服・おもちゃ 匿名様
 - ザボン シロップ漬け 南光物産(株)様
 - 里芋・大根・菜の花・たまご 二宮洋典様
 - 洋服・おもちゃ 野中優子様
 - 鉛筆 パッケージプラザ都留様
 - 甘夏 東藤信様
 - 電化製品・収納家具・小物 平山俊一様
 - 衣類 福本陽子様
 - 衣類 藤井稀様
 - リノックサック・食器 府内大橋こどもクリニック様
 - 野菜 古川泰征様
 - ネーブル・みかん 木付弘子様
 - 米 まえはら調剤薬局 後藤としみ様
 - 歩行器具・ミルトン・ベビー服 向寿子様
 - みかん(スイートスプリング) むぎの会様
 - 本・絵本 山本宜雄様
 - 衣類 山本美香様
 - お菓子 ユーコーラックキーウエスト上ヶ浜店様
 - 文具セット (株)レイメイ藤井 大分支店様
 - 学用品(入学祝) 別府中央ライオンスクラブ様
 - タオル・靴 緒方町女性退現協議会様
 - 洋服・おもちゃ 明治安田生命 大分支社大分北営業部様
- 集いの場くるみ ボランティア
- 温泉たま子(水田直子)・加藤律子様
 - 甲斐恵美子・ムー(齋藤正治)様
 - スウインジイ(渡邊由子・平野俊安)様
 - ハナミズキ(田中真子・小田原千恵子)様
 - マビック(荒牧巖)・横大路明子様
 - 平川義文・平川順子様
 - 尾崎二郎様
 - 庄司宣充様
 - 猪股通安様
 - 荒金節子様
 - 西村大輔様
 - 中村雄一様
- 金曜学校
- 書道
- 散髪奉仕 WEST VILLAGE 西村大輔様
- 散髪奉仕 ビューティモア 中村雄一様

編集後記

コロナ感染症への対応が少しずつ緩和され、栄光園でもグラウンドの満開の桜の下で、3年ぶりに全員そろってのお花見をすることができました。

来年には新しい乳児院の建物が建ちます。この広いグラウンドの見事な桜を見ることができると今年限り感慨もひとしおです。

栄光園の歴史の1ページとしてこの満開の桜の風景を記憶にとめておきたいと思っております。来年見ることができると新しい景色を楽しみにしています。
(原田)



苦情等相談窓口

*法人および各施設での苦情等は下記の連絡先へご相談ください。

tel.0977-23-2827
fax.0977-23-7520
mail eikoen@live.jp

賛助会員募集

年会費、10千円、但し、何口でも、分割可。

ご連絡いただければ職員が参上します。栄光園賛助会事務所は、別府市南荘園町3組です。

賛助会員の皆様には、栄光園の広報誌「栄光園だより」を送付させていただきます。

郵便局での振込は左記までお願い致します。

口座名義 社会福祉法人 栄光園
口座番号 019301220748

散髪奉仕 Hair Salon Aiwa 立川奈美様

前号にて一般寄付者の記載漏れがございました。大変失礼致しました。お詫びして訂正させていただきます。

日本基督教団門司教会様 北九州市